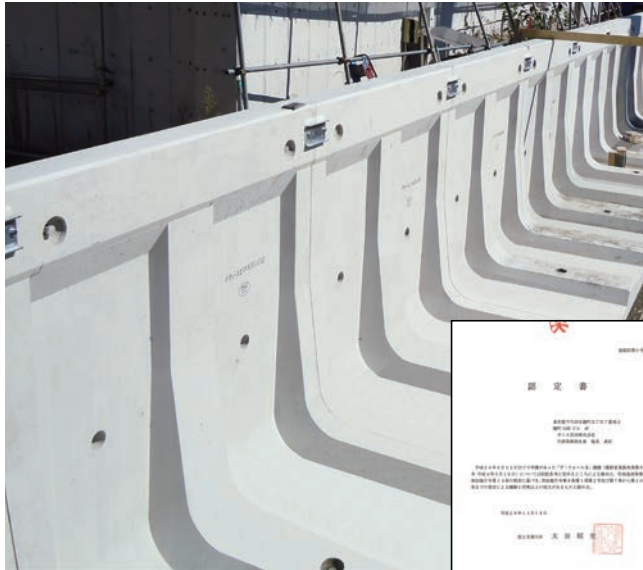


ザ・ウォールII (耐震型)

国土交通大臣認定L型擁壁(宅造製品) | H=1000～3000



国土交通大臣認定書▶

特 長

- 1.設計水平震度 $K_h=0.25$ に対応。大地震に対して宅地と
その上に建つ建築物の安全性を一体的に確保します。
- 2.国土交通大臣認定の擁壁なので、手続等が簡素化でき、
計画から認可までの期間を短縮できます。
- 3.前面が垂直なので、敷地境界線まで土地を最大限有効
に活用できます。
- 4.天端に直接フェンスを設置できるので、別途基礎ブロック
の設置が必要な製品と比べ、敷地を有効に活用できます。
- 5.コーナー部は、 $90^\circ \leq \theta < 180^\circ$ の範囲で敷地の形状に
合わせたフレキシブルな造成計画が可能です。

設計条件

項目	長期		
	常時	フェンス荷重時	大地震時
地表面の勾配	LEVEL		
積載荷重 (積雪荷重)	$Q=10.0\text{kN/m}^2$ (積雪荷重を含む)		
裏込土の内部摩擦角	$\phi=30^\circ$ 以上 または $\phi=25^\circ$ 以上 30° 未満		
裏込土の単位体積重量	$\gamma_t=16\sim 19\text{kN/m}^3$		
基礎地盤の内部摩擦角	$\phi=30^\circ$ 以上 または $\phi=25^\circ$ 以上 30° 未満		
滑动摩擦係数	$\mu \leq 0.6$ の場合 $\mu = \tan \phi$ $\mu > 0.6$ の場合 $\mu = 0.6$ $\phi=30^\circ$ の場合 $\mu = 0.577$ $\phi=25^\circ$ の場合 $\mu = 0.466$		
必要根入れ深さ Df 岩盤に設置する場合を除く	$\phi=30^\circ$ 以上 : Df=35cm以上かつ見え高さの15/100以上 $\phi=25^\circ$ 以上 30° 未満 : Df=45cm以上かつ見え高さの20/100以上		
安定計算用の壁面摩擦角 (主働土圧)	$\delta = \phi/2$		$\delta = \phi$
安定計算用の壁面摩擦角 (受働土圧)	—		$\delta = 0$
断面計算用の壁面摩擦角 (主働土圧)	$\delta = \phi/2$		
地域係数 ※1	—	—	1.0
設計水平震度	—	—	$k_h=0.250$
設計鉛直震度	—	—	$k_v=0$
土圧の算定式	クーロン式	クーロン式	物部・岡部の式
コンクリートの単位体積重量	$\gamma_c = 24.0\text{kN/m}^3$		
設置可能フェンス高	$h=2.00\text{m}$ 以下 ※2		
フェンス荷重	作用高さ Hf=1.10m 作用荷重 Pf=1.0kN/m 及び、建設省告示第1454号による風荷重		
荷重の組合せ	自重	○	○
	積載荷重	○	○
	常時主働土圧	○	—
	地震時主働土圧	—	○
	慣性力	—	○
	地震時受働土圧	—	○
	フェンス荷重	—	—

※1 建築基準法施行令第88条1項による地域係数 ※2 見付率により異なります。